

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176501870		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム南与野		
所在地	埼玉県さいたま市中央区鈴谷1丁目24-1		
自己評価作成日	平成29年1月12日	評価結果市町村受理日	平成29年 5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様1人1人の希望にそった支援を行っている。 ご本人様がやりたいと思っている事、したい事は否定せずどうしたらかなえてあげられるかを全スタッフ話し合い、出来るよう努めている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成29年2月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、地域密着型の事業所として近隣とのつながりを重視している。運営推進会議には、向いにある保育園の園長や自治会長が出席し、「お互いに尊重し合い、風通しの良い関係を作りましょう」とアドバイスももらっている。事業所の敷地内の畑を近所の方に使ってもらい、収穫した野菜を分けてもらっている。今後、さつま芋を栽培してもらい、利用者と保育園児合同の芋ほり大会を楽しみにしている。職員は常に利用者一人ひとりに対して同じ目線で寄り添うことを心がけている。一人のためにどこまでできるか、できるだけのことをしたいと考えている。外出についても利用者の思いや意向を尊重して、個別の外出にも可能な限り対応している。職員と利用者、家族との関係をしっかりと築き、その中で職員同士が互いに助け合える関係になることを目指している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は各スタッフルームに掲示し常に目に届く所にあり、またケアの信念を毎申し送り時に唱和する事で全スタッフが共有し実践するよう心がけている。	法人理念の他に職員による事業所独自の理念とユニット毎の目標を掲げている。「利用者の喜びが原動力」であり、傾聴の姿勢を大切に、一瞬一瞬のニーズに沿って対応できるように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	向かいにある保育園とは日常的に交流しており、散歩時には挨拶したり、毎月お誕生日会に参加させて頂いている。	自治会に入会し、地域の夏祭りやごみ拾いに参加している。事業所の避難訓練や夏祭りにも声かけをしている。向いの保育園とは日頃から交流があり、利用者は職員と一緒に回覧板を届けに行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、地域の方に向けて情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や地域の方々へホーム内の活動状況を報告し頂いた意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。	家族、地域包括支援センター職員、区役所職員、保育園長、自治会長の出席を得て2か月に一度開催されている。家族が出席しやすいように行事の後の時刻に開催してみたら、時間的に助かると好評であった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	最近では十分に時間をとることが難しく、2か月に1度の運営推進会議での報告のみとなっています。	役所へは書類の提出や相談に出向いている。区役所プラザで開催される文化祭にはお誘いがあり、利用者の作品を出品している。水害対策や介護保険についての講習会にも参加し連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束防止チェックシートを行いスタッフ1人が自分のケアを見直す時間をもうけている。	身体拘束についての内部研修では「どうすることが拘束に当たるのか?」「こんな時はどうする?」と話し合われている。危険と思われる場面では利用者に対して制止するだけでなく、状況と理由を説明し納得してもらうようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待チェックシートを定期的に行い全スタッフ共有する事で常に注意を払いケアにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修は可能な限り各々で参加している。内部での研修は時間が取れていない事が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明はマネージャー・ホーム長に対応して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の意見は職員1人1人が常に聞き入れる姿勢であり、頂いた意見は共有し運営に反映できるよう努めている。	家族の面会時には積極的に話しかけて気軽に意見をもらえるような雰囲気作りに努めている。新しい職員が入ったら必ず紹介し、家族から要望があれば丁寧に対応し、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のユニット会議によりスタッフ1人1人の意見を細かく伺い、サービス向上に反映している。	会議やミーティングで職員の意見を聞き、個人面談も毎年行っている。新人職員からは積極的に話を聞くようにしている。業務の流れについてやレクリエーションについての提案があり運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニット会議の場以外でも通常の勤務の時間中も常にスタッフとコミュニケーションをとり意見を交換している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望しているスタッフには積極的に外部研修をすすめ参加できるよう働き方を調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとはレク(行事)の際ボランティアとして参加する事で交流する機会をもうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを全員がしっかりと読み事前に本人の困っている事や不安な事、また話の糸口となる趣味・好みを把握する事で信頼関係を築く事に役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪された際にはこちらから近況を伝えたりする事で困っている事や不安な事を言いやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度ご本人様が1番必要としている事を見極め、内容も優先順位をつけて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゴミ捨てやおぼん拭き、洗濯物たたみなど役割を持って頂き一緒に行う事でお互いの関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段と違う様子が続いたり、往診時大きく変化があれば来訪時や電話にてお伝えさせて頂き、共に本人を支えていく関係を築こうと努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の馴染みの場所を伺い、テレビで取り上げられた際は話を聞き関係が少しでも途切れないよう努めている。	手紙や電話の取り次ぎに対応している。利用者が行きたいと希望する場所へは車でお連れしている。「ここにいるからできない」と思ってほしくないの、できる限り対応して関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者1人1人の性格や思いを伺い、お互いが良好な関係を築けるよう時にはスタッフが間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、支援がない状況です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いや生活に対する希望はしっかりと受け止め希望にそえるようご家族様とも一緒に相談し検討している。	職員は利用者の生活歴や嗜好を周知して、一人ひとりの要望をうかがい個別の対応をしている。言葉が困難な方には目線を合わせて話かけ、手に触れて安心してもらえるようにタクティールケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはアセスメントを全スタッフが把握し、またスタッフが各々気づいた事は記録に残し共有出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄や食事量・血圧・入浴など含め一日の過ごし方、会話の内容など日々の介護の中で気がついた事を記録に書きとめ、情報の共有・把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月3人ずつカンファレンスを行い、ケアの見直しを行っている。本人や家族の意見と共に、スタッフの意見を見直しに活かし作成している。	毎月のカンファレンスでは多くの意見がなされ、ケアプランに活かされている。本人と家族の要望を聞き入れ、たとえADLが低下しても穏やかな生活ができるように現状に即したケアプランの作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の中での変化や気づきは必ず記録に落としスタッフ間で共有する事で介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じて個別に柔軟な支援が出来るように家族にも理解を得られるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本が読みたいと希望している方へ図書館利用を検討しており、1人ひとりに必要な支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族からの要望を大切に月2回の往診や専門のかかりつけ医による受診の支援を行っている。	全員が内科の訪問診療を受診している。週に一度、歯科医と歯科衛生士の訪問もある。緊急時は24時間医師に連絡できる体制が整っている。外部受診は基本家族同行だが職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護師には日常の変化を細かく伝え支援頂いている。また、特変などあれば電話相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院関係者との情報交換を密にとり、退院に向けての連携が取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を考えるにあたり、施設長やかかりつけ医の考えのもとご家族様とのICの機会をもうけてできるかぎりの支援に取り組む姿勢でいる。	家族には入居時に事業所としての指針を説明している。医療行為が必要になったり、食事摂取が困難になった場合には医師や家族と相談し、利用者にとって最善の方法で臨むことにしている。職員の研修も必要と考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のためのマニュアルを目のつく所に掲示し、全スタッフが対応出来るよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、避難方法や避難先の確認をしている。	年2回消防署立ち合いの下、避難訓練を実施している。災害時の緊急連絡網を作り、日頃から職員の意識を高めている。AED設置を近隣の方々に周知し、近隣との協力関係を密にしたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対しては馴れ合いや遠慮のない言葉かけを使用しないよう日頃から心がけ、1人1人を尊重した声かけを行っている。	個人情報書類は事務室内に保管し、パソコンはパスワードで管理している。利用者への言葉使いは慣れ合い言葉にならないように気を付けている。入浴やトイレ排泄時には羞恥心への配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや希望をスタッフは常に聞く姿勢でいる。また、自らが決定や選択をすることができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人1人のペースを大切に、好みの番組視聴や歩行運動のお手伝いなど希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は出来るかぎりご本人様に選んで頂いている。またご家族様の希望も考慮し身だしなみやおしゃれのお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みに応じて、納豆をつけたり漬物をつけたりしている。食事はご自身で下膳して頂いたり、おぼん拭きを手伝って頂いている。	下膳や食器のすすぎ、ふき取りを手伝ってくれる方もいる。誕生会、敬老の日、クリスマス会、お正月等の行事食は利用者に希望を聞き、季節感のあるメニューを提供しており、外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行い、栄養バランスは良好か、脱水になっていないか気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけと一部介助により口腔ケアを行っている。不十分な方にはスタッフがお手伝いさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け排泄の間隔やタイミングを把握し、それに合わせて誘導する事で自立にむけた支援を行っている。	職員はチェック表を基に利用者個々の支援が必要なポイントをつかみ、変化に応じて対応を変え、情報を共有している。歩行可能な方には自立に向けてトイレ誘導を行っている。便秘予防の運動も心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分を摂って頂くよう声かけしたり、10時にコーヒー牛乳を飲んで頂いたりと予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3~4日ごとにお誘いし入浴頂いている。拒否の強い方に対しては成功しやすい方法を全スタッフで共有し、出来るかぎりご本人様のタイミングに合わせてお誘いしている。	基本週2回は入浴してもらっている。拒否の方には職員が知恵を出し合い「入りませんか？」ではなく「お待たせしました」と誘い、気持ちよく入浴してもらっている。柚子湯や菖蒲湯も楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の体調を考慮し、居室で休んでいただく時間も大切にしている。夜間不安が強く寝れない方に対しては安心できるフロアで休んで頂く対応も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルはスタッフがすぐに見れる場所に配置しており、目的や副作用、用法の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の意欲や希望、得意・不得意に合わせて出来るかぎり皆で楽しむレクを行っている。(ちぎり絵など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は毎日の散歩や買い物、通院や外食など少しでも多く機会がとれるよう支援している。	近くの店へ散歩がてらパンを買いに行ったり、職員のゴミ出しを手伝ったりと積極的に外へ出かけている。車椅子の方も外気浴を楽しんでいる。初詣、花見、いちご狩り等の行事での外出の他に、希望の場所があればお連れしたいと考えている。	全体としての外出や数人ずつの外出、または利用者の状態に合わせた外出支援方法を考えている。職員はできないからと諦めずにいろいろな方法を模索して、内容の濃い外出支援を実施することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持出来る方でご家族様の理解をえている方は持って頂いており、自動販売機でご自身で飲み物を買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じてご家族様に迷惑のかからないはんい内で電話をかけて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の中で1番長く過ごされるフロアはなるべく広くゆったりとしたスペースをとっている。ソファを置き、いつでも休んで頂けるように工夫している。	陽当たりの良いリビングの食卓テーブルの座席は利用者一人ひとりの生活スタイルに合わせた場所になっている。季節を感じるちぎり絵等の作品を面会の家族と共に楽しんでいる。畳敷のコーナーでは利用者が洗濯物干しを手伝っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士を同じ食席にしたり、ソファに座って自由に話が出来ようスタッフが間に入り支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、なるべく早く居室をご自身の部屋だと受け入れられるよう、家にあるご本人の物をお持ち頂き配置している。	使い慣れたテーブルや椅子、CDラジカセ、テレビ等を持ち込み、家族の写真や免状、賞状を飾っている。安全性の確保を第一に考え、本人の希望を優先しながらもベッドの向きや寝る方向を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険の認識が難しい方に対してベンチにのぼらないよう、ベンチにぬいぐるみを置く等して工夫をしている。		